

同教科小中合同研修（1年次の成果）

互いの校内研修の授業・討議に参加し合っ、学んだことや更に深めたいことをアンケート調査しました。その結果の一部を紹介します。

①学んだこと

- ・学習内容のつながり（系統性）が具体で分かった。
- ・子供が発達していく過程が分かった。
- ・小中を通して、大切にしなければならない教科指導の重要事項が確認し合えた。
- ・目的をもった対話の重要性は小中一貫している。
- ・小中双方の授業分析の仕方で討議ができるので深い教材研究につながる。
- ・互いの指導技術や単元のしかけ等を学び合えた。
- ・討議の仕方が異なっており、専門性を深める中学校と子供の様子から代案で議論する小学校とそれぞれ特徴が分かり、刺激になった。
- ・板書、掲示物等、発達支援やユニバーサルデザインの視点が参考になった。

②さらに深めたいこと

- ・教科でめざす姿、ゴールのイメージを小中で共有化して進める。
- ・互いの研究会に検討段階から参加し、互いに意見を述べ合う。
- ・つながりのある単元や専門性が求められる単元など小中の教員がコラボすれば指導効果が上がることを絞ってコラボ授業を行う（今年度英語で実施した小中のコラボ授業は双方の教員に効果があった。2学期号参照）。
- ・今年度中学生が小学生を教える形態を、英語で実施してみて双方に効果があった（右頁参照）。他教科でも可能性を探る。
- ・小学校のノートを中学校に持ち上がり活用する。
- ・合同運動会を活用し、9年間のカリキュラムを構想する。
- ・互いの開発物を共有する。

その他にも開発的な意見がたくさんありました。効果的・合理的に進められるよう、そして、子供の成長に寄与する一貫教育になるよう、各教科チームで知恵を出し合い進めていきます。



共にグループ活動を観察

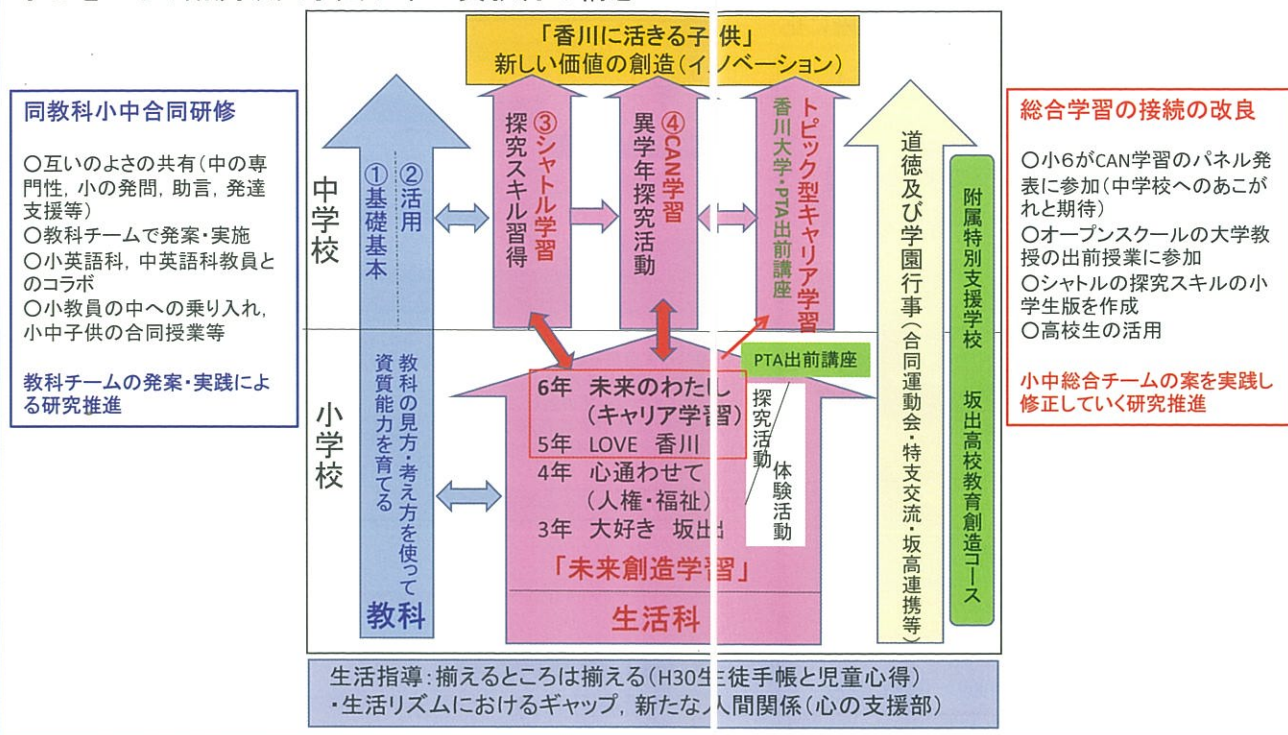


小学校の討議で意見を述べる中学校教員



算数・数学チームの協議

学びをつなぐ附属坂出学園小中一貫教育の構想



総合学習「CAN」

CAN2019最優秀研究 青雲賞「黄身（君）を助け隊」が受賞！

11月に行われた校内文化祭では、CAN賞に選ばれた5つのクラスターがステージ発表を行い、投票によって今年度の青雲賞が選ばれました。卵を高い所から落とすとしても割れないためにはどうすればよいのか。物体が落下する際に達する終端速度に着目し、昨年度よりも成功率の高い落下装置を作り上げた「黄身（君）を助け隊」のクラスターが青雲賞を受賞しました。受賞の要因は、「3人のチームワークがよかったこと。100回近く落下の実験をしたり、その結果をもとに香川大学の教授から助言をいただいたりしたこと。そして、納得のいく結果が得られたことです。」とクラスターリーダーの3年生は語りました。3人は附属坂出小学校でも探究の成果を発表し、探究のおもしろさ、CANの楽しさを来年度からCANに取り組む予定の小学6年生に伝えていました。

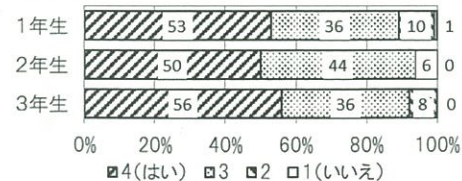


みごと青雲賞を受賞した3人

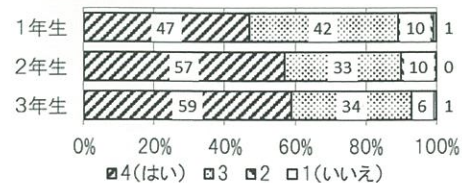
CAN2019 課題を追究する力がついたことを実感！

CAN2019では、昨年度と比べて2時間編成の時間を多く設定したり、「CANの日」を2回から3回に増やしたりと、まとまった探究時間を設定しました。このことによって、実験や調査が途中で終わることが少なくなり、校外の専門家を訪問するクラスターも増えました。以下のアンケートからも分かるように、じっくりと探究する時間が確保できたことで、探究への達成感や探究する力が身に付いたことを生徒は実感できました。

「自分の探究活動に達成感を感じていますか」



「課題を追究する力はつきましたか」



英語授業コラボ

12月13日（金）に、小学6年生と中学3年生が合同で英語の授業を行う交流学习を実施しました。お互いに英語で自己紹介をしたり、ゲームをしたりしながら、楽しい雰囲気の中で学習することができました。また、中学生が英語で部活動紹介も行いました。中学生は、小学生に紹介したいことを考え、小学生により伝わりやすい英語表現を用いたり、実物を見せながら紹介したりするなど、工夫して発表していました。小学生は、一生懸命に中学生の英語を聞き取り、メモをとったり質問したりしていました。楽しい雰囲気の中で、意欲的で活発な英語での語り合いが見られ、実りの多い交流学习となりました。

<中学生の振り返りより>

- 小学生と英語で交流する機会はなかったもので、自己紹介やゲームなどで英語でコミュニケーションすることができて、私もとても楽しかったです。部活動紹介を聞いて、小学生が質問してくれたり、うなずいてくれたり、メモをとってくれたりしたので、とてもうれしかったです。
- 小学生がどこまでの単語を覚えているのかを話しながら見つけるのが難しかったです。でも、ほとんどは小学生は理解しているみたいだったので、自分も追いつかれないように英語に力を入れて勉強していきたいです。

<小学生の振り返りより>

- 中学生は今までとても大きな存在に思えて話しかけにくかったけれど、英語で質問すると、様々なことを教えてくれたり、話しかけてくれたので、とても面白く、分かりやすく楽しかった。部活の種類や行っていること、人数など、たくさんを知ることができてよかった。中学校に行くまでは緊張していたけれど、話しかけてくれたのでうれしかった。
- 習っていない単語ばかりで分からなかったけれど、中学3年生との交流も深められたのでとてもよかった。部活のことも知れてよかった。次は中学1・2年生とも交流したいと思った。さらに次は部活ではなく、行事やもっと他の事について質問していきたいと思った。中学校に入学してたくさんの単語を覚えていきたいです！



CANを終えた中学3年生の振り返り

- ・CANは探究のおもしろさだけではなく、実験や発表の仕方など授業につながることで、後輩とのコミュニケーションなど、たくさんを学ぶことができました。
- ・CANとは「自分自身を成長させてくれたもの」でした。学年が上がるごとに、失敗を重ねる度によりよい探究ができたと思います。

文化祭を参観した保護者の方の意見

- ・CANはおもしろい取組だと思います。自主的に学ぶ力を身に付けてほしいです。
- ・学年を超えたクラスターでの探究活動は、より質の高い研究ができ、親しみのある学校生活になると思います。